

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日 令和 2 年 8 月 28 日
 都市名・国 国立市・日本

取組の名称	「ふつうの日になったのか 原爆の日」展
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input checked="" type="checkbox"/> 複合 (国立市・「ふつうの日になったのか 原爆の日」展実行委員会)
テーマ・目的	原爆 (例:核兵器廃絶、テロ、暴力など)
対象者 (年齢・学年、人数等)	市民ほか、どなたでも (例:12 歳の子ども 60 名、保護者や市民 30 人など)
実施場所	国立市役所ほか
実施期間	令和元年 6 月 24 日～ 令和元年 8 月 20 日 (2 カ月間) ※定期的に行う取組は、その旨を記入し、いつから、どれくらいの頻度で実施しているかを報告してください。
取組の概要 (授業、イベントはプログラムの次第を、その他 (例:コンテスト等) はそのプロセスを、具体的に記入してください。) 6 月 24 日～7 月 11 日:「原爆の日を忘れないための『一行のコトバ』」を募集。 8 月 1 日～8 月 20 日:選考委員により、応募総数 890 作品の中から 31 作品を選び、市役所ロビーほか、市内全 9 施設で展示。 令和 2 年 1 月:選ばれた 31 作品を、作品集として卓上日めくりカレンダーにまとめ、作品が選ばれた方及び市内小中学校ほか市関連施設等に配付。 毎年実施している本事業において、初めての取り組みとして、7 月 1 日～7 月 11 日及び 8 月 1 日～8 月 20 日のコトバの募集・展示にあわせて、「広島市立基町高等学校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による『原爆の絵』」の展示を、市役所及び公民館にて行った。	
参加者の反応 「若者たちのコトバに胸を打つものがあった」「次世代への継承のために大切な、工夫された取り組みだ」「平和とは何か、自分にできることは何か、考えながら見た。高校生の絵は特に胸に訴えるものがあった」などの感想が寄せられた。	
成果 8 月上旬に『原爆の絵』がテレビや新聞で取り上げられたこともあり、コトバの募集・展示にあわせて『原爆の絵』を展示したことによって、平和について、原爆について、深く考える機会を提供することができた。また、絵の展示をきっかけに、市内の私立学校でもコトバの応募に取り組んでくださるところが増えた。	
課題 学校での取り組みが広がっている一方で、一般市民への周知が難しく、一般市民からの応募が少ない状況がある。より多くの人の目に触れる紙・ネット上の媒体について検討したい。	
取組で使用した素材について (図書、映像、パワーポイントなど。内容をわかりやすく簡潔に記入してください。) 「広島市立基町高等学校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による『原爆の絵』」のデータを入手、印刷して使用した。 市内在住のイラストレーターによる絵を、告知ポスター及び、作品集として制作したカレンダーに使用した。	
上記素材の共有の可否 (取組で使用した素材を、平和首長会議の WEB サイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。) <input checked="" type="checkbox"/> 掲載可能 (素材を添付してください) <input type="checkbox"/> 掲載不可 <input type="checkbox"/> 不明	

※ 画像等の資料がある場合は別ファイルで提出してください。